

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市沖野老人福祉センター
2 指定管理者	社会福祉法人 仙台市社会事業協会
3 指定期間	令和6年4月1日～令和11年3月31日
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和6年度 23,111人(前年度比 311.9%) 令和5年度 7,409人 令和4年度 15,432人
	《事業》 市内に住所を有する60歳以上の高齢者に対し、各種の相談に応ずるとともに、健康の増進、教養の向上及びレクリエーションのための便宜を総合的に供与する。
5 収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 42,777千円(27,654千円) ・ その他市が負担した費用 0千円(197,803千円) ()は前年度決算額
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円(0千円) ・ その他収入 0千円(0千円)
6 利用者の声	《実施状況》 令和7年2月に利用者アンケートを実施。その他にも利用者向けに「ご意見箱」の設置や利用者代表で構成される管理運営委員会の開催など、利用者の提案内容や要望等に耳を傾けながら事業運営を行っている。

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	老人福祉センターの設置目的を踏まえた基本方針に基づき施設運営がなされており、職員も設置目的を適切に理解している。 また、利用者の健康づくりや、公平・公正な利用、高齢者の特性を理解したうえでの心身への配慮に努めるなど、利用者本位の施設運営を行っている。	33/33
II 施設の運営管理体制	必要数の職員が配置されており、職員間では円滑な連携が図られ、適切に運営されている。経理書類も適正に作成されている。 また、個人情報の漏洩や滅失を防止するため、管理責任者を定め職員への周知等の意識啓発を行うなど、個人情報保護に対する体制を整えている。 事故や災害の発生に備え、対応マニュアルの策定、連絡体制の構築等の取り組みを行っている。	25/25
III 施設・設備の維持管理	利用者の安全・安心・快適な利用を維持するため、施設内外の清掃を適切に行い、事故防止のための館内巡回も行われている。 また、節電やごみ発生の抑制、グリーン購入を実施するなど、環境に配慮した施設運営を行っている。	24/24
IV サービスの質の向上	利用者が気持ちよく利用できるよう、丁寧な応対と分かりやすい説明を心がけている。また、毎月のセンターだより発行など、利用者への情報提供や施設のPRも積極的に行っている。 さらに、利用者の意見や苦情に対し、その対応手順や担当者を明確にするとともに、市が実施する利用者アンケート、管理運営委員会における意見交換等により利用者のニーズを把握するなど、利用者の意見を反映した施設運営に意欲的に取り組んでいる。	28/28
V 施設固有の基準	高齢者が自ら学んだことを発表する機会の設定を積極的に行なっており、利用者の主体的な企画実施に対する支援も行っている。 また、利用者の代表者で構成する委員会を開催し、利用者が施設運営に関わる仕組みづくりを推進しており、利用者意見を取り入れた企画の立案を行っている。	9/9

三 評価総括

《指定管理者（社会福祉法人 仙台市社会事業協会）による自己評価》
老人福祉センターの役割として大切にしているのは、地域に住まわれる方が高齢になっても、認知症になっても安心して過ごすことができる地域づくりです。フレイル予防や認知症への備えを目的とした事業を展開し、感染症対策としては新型コロナウイルスを含む様々な感染症予防のため、検温・手指消毒・マスク着用を継続し、安心して利用できる環境づくりに努めました。 「認知症になっても安心して過ごすことのできる沖野」を目標に掲げ、「認知症カフェ（おきらくカフェ）」を開始。認知症理解促進やサポーター養成講座も実施し、関係機関と連携しながら地域全体で支える体制づくりを進めています。また障がいを持つ職員の採用も実現し、受付や清掃などに従事しながら利用者との関係も良好です。 その他町内会や福祉委員会、自主防災組織への参加を通じて地域との情報共有・連携強化を図り、地域包括支援センター等との連携により、課題のある利用者への支援にも取り組んでいます。 また最近では、スマートフォンを手にする高齢者が増える中、使い方の相談が多くなってきたことからスマートフォン教室を開催。今後はいつでも気軽に相談できる体制を整え、施設と利用者、利用者同士のつながりを生むきっかけとしていきたいと考えています。 認知症支援、障がい者雇用などを共生社会の実現に向けた取り組みの一步と位置付け、今後も職員・利用者の理解を深めながら活動を継続していきます。

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
令和6年度の施設運営について、協定書及び仕様書に従って適切・良好に行われた。 「認知症カフェ」を「おきらくカフェ」として展開し、認知症という言葉に対する認知症患者本人や家族の心理的抵抗を軽減する工夫は、関係者に参加を促す上で非常に有効であり、認知症サポーター養成講座の実施や関係機関との連携も、地域で認知症を支える体制づくりに貢献していると言える。 感染症対策についても、新型コロナウイルスに限らず、継続的な予防策を講じることで、利用者が安心して施設を利用できる環境を整えている。 さらに、障がいを持つ職員の採用を実現し、受付業務や清掃などを通じて利用者との良好な関係を築いている点も、高く評価される。 その他地域との連携においても、町内会や地域包括支援センターとの情報共有や連携強化に努めており、課題のある利用者への支援にも取り組んでいる。 以上の内容から、沖野老人福祉センターの令和6年度の運営は、総合的に高く評価できる。	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：健康福祉局保険高齢部高齢企画課